

手續モ保  
覺ヘヌ亡野口紋五郎及ヒ書母ハル自分ト三名ニテ戸主届  
致シタル旨申立ツルト雖モ被告ハ當時野口紋五郎等ト同  
行シ戸主届ナシタルヲ無シト云ヒ其他原告ノ証據ニ對シ  
答辨スル處アルモ之ヲ要スルコ原被双方ヨリ提供スル内  
田家ノ戸籍簿寫ニ原告カ妻子タルノ記載アレニ戸主タル  
ノ勝記ナキヲ以テ原告カ戸主タルトノ申立ハ採用シ難シ  
假令原告戸主タリトモ第一條ノ理由ナレハ尊族ノ被告カ  
離別スルナ原告ニ於チ差拒ム權利ナキモノトス而ルナ况  
ンヤ戸主タラサル者ニ於ケルナヤ原告争フ所既ニ定マル  
ラ以テ其他ハ辨明セス〇第三條右ノ理由ナルヲ以テ原告

電信分局  
モノ、  
ト雖ニ一  
判訴入費ハ原告ノ負擔タルヘシ  
但訴訟入費ハ原告ノ負擔タルヘシ  
電信分局  
控訴ノ観意相立ス初審裁判ノ通相心得ヘキ事  
候ニ付相  
東京控訴裁判所  
判事 覧 元忠  
明治十五年二月廿八日 同 新井 一葉

東京輕罪裁判所宣告  
東京日本橋區小舟馬町七番地平民  
當時萬田裏猿樂町五番地  
中 山 震  
七十二年

武長 懷 貞 道 利 正 信 善 貞 道 利 平民山口玉瑞代伊飯島正之亮ヨリ越後國菅谷不動尊ナ東京へ持越し開屏ノ爲メ被告借主トナリ永井忠一郎外四人保証人ニ相立金百五十圓ヲ借受証書差入ケル筋右飯島正之亮ヨリ被告ヘ渡レ置タル通帳ヲ切斷シア飯島正之亮ガ預り証書ノ本ニ半爲ノ該金員、告人アリテ一子吉瓦等、

平四郎 正  
蒙吉行  
ト雖ニ現ニ保証人其他關係人共ノ面前ニ於テ金員受取貸  
主ヘ借用証書ヲ渡シタルニ相違ナレト云フノミナラヌ當  
初ニ長町區裁判所ヘ動解ナ出頭セシ折柄被告ノ苔辨ニ據  
レハ山口玉瑞代飯島正之亮ヨリ自分ガ借主トナリ云ケト  
明吉バノノ以ニ之ヲ覗察シテ其子也ト認定

明吉本ムナ以テ之ヲ觀察ムヘモ被告ガ借主タルハ明瞭ナ  
リ即該金額ヲ漸次コ請取り開帳ノ費用ニ充タルモ謂中ノ  
間ニ萬藤ナ生シ遂ニ勘解モ不調トナリ駆ア該金員ノ全部  
ヲ被告一已ニナ負担セサルヲ得サル場合ニ至ルナ以テ其  
義務ヲ免ガレンカ爲メ曾ナ正之亮ヨリ預リ置タル証書チ  
代筆人

第三百四  
三百四番  
作  
妻アツト共謀ノ上私擅ニ變相ケテ民事ノ要求ヲ拒ミタル  
モノト認定スルヲ以テ右科ハ新法實施以前ニ付刑法第三  
條第二項ニ依リ新舊二法ナ比照スルニ當博ニ於ハ改定  
律例第二百四十六條不應爲重キニ問ヒ懲役七十日年七十  
以上ナルヲ以テ老幼廢疾取廩候ニ依リ杖罰金壹圓七十五

新法ニ於アハ刑法第二百十條權利義務ニ關スル書面ヲ  
偽造シ又ハ増減變換シテ行使シケル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四罰以ト四十罰以下ノ罰金ヲ附加スト  
アルニ該スヘキモノニ付明治十四年第八十一號公布第二  
條ニ照シ其經キ舊律ニ從ヒ取崩令壹圓七十五錢ニ成スル

時事新報  
者也  
初審書類  
フニ無根  
合人田中  
無シト申  
治國要論一  
國一日セ安寧ナカル可ラス安寧ナシレハ人其者ニ安ソヒ

ス國一日、秩序ナタル可ラス秩序ナケレ、人其務ナ成ス  
レハ被告  
詫ハズ、既ニ安ク且疾アル也。改筋改良をアレハ入其業ナ  
和セタル  
局ム「詫ハズ、業ナ開アルノ間ハ総合工事ナ企主ト爲  
業者ナモ

カルマナ　ストレートブレード一式

時事新報